

# 翠青

## 品種分類

タイプ:寒玉・中早生  
対応作型:春播き(推奨)・夏播き



### 収穫目安(定植後)

春播き:70~75日  
夏播き:65~70日

第65回全日本野菜品種審査会上位入賞(2014年度 千葉県)

## 特徴

- 中早生の寒玉タイプ。
- 石灰欠乏等の微量元素の発生は極めて少なく、高温期での収穫適性を有する。
- チャボ玉や尖り玉の発生は極めて少なく、低温期播種で温度の上昇する作型に最も品種特性を発揮する。
- 外葉は半立性、濃緑色でやや大きめとなる。
- 萎黄病に耐病性を有する。

### 栽培適期表

| 地域  | 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| 高冷地 |   |   |   |   | ● | — | — | — | — | — | —  | —  | —  |
| 一般地 |   |   | ● | — | — | — | — | — | — | — | —  | —  | —  |
| 暖地  |   | ● | — | — | — | — | — | — | — | — | —  | —  | —  |

記号説明 ●:播種 ×:定植 —:栽培期間 ■:収穫期間

## 栽培方法

### <栽培管理>

中早生の寒玉系品種です。高温期における石灰欠乏の発生が極めて少ない特性があります。また、低温感応による尖り玉の発生は極めて少ないため、一般地では春播きの6月収穫、高冷地・冷涼地では7~9月の収穫を推奨します。ただし、厳寒期にはアントシアニンの発生が認められるため、収穫時期の設定に注意してください。

初期の生育は比較のおとなしいですが、温度の上昇に伴い葉枚数、葉の大きさ共に増大していきます。その増大前に追肥を施し、生育が滞らないように努めてください。収穫時期にはある程度肥効が落ち着く肥培管理を推奨します。

### <栽培方法>

株間は35~38cm、条間は65cmの1条定植で、栽植本数は4,400~4,800株/10aを推奨します。肥培管理は一般的な中早生種と同程度かやや少なめとし、総施肥量はチッソ換算で14~16kg/10aを標準とします。春播きで6月の比較的高温期の収穫を推奨します。追肥はある程度早めに行ってください。

### <ポイント>

春播き栽培における注意点。①育苗から定植後の初期生育期

は低温に遭遇するため、低温感応し、結球の乱れや尖り玉の発生を起こす可能性がある。②収穫期が比較的高温期に当たると、石灰欠乏等の微量元素欠乏の発生を起こす可能性がある。この2点に特に注意して品種選定を行う必要があります。翠青はこの2点に対する耐性が非常に強く、安定した青果出荷に対して推奨いたします。



石灰欠乏症の株の様子

翠青 春作 青果断面図



(2015年6月23日調査・撮影)

かぎろひ 春作 青果断面図



### <ご注意>

上記の数値は弊社圃場内での実例であり、各地域によって最適な条件へ変更していただくようお願いいたします。弊社圃場は奈良県天理市内にあり、温度域としては中間地、土壌は埴壤土での栽培条件となっています。